

令和2年度 受賞者一覧

文部科学省 生涯スポーツ功労賞

北海道体操連盟 副会長 小林 茂



昭和37年より旭川西高等学校体操部監督として数多くの全道優勝を成し遂げ、国体においては体操競技監督6回、新体操男子監督11回を歴任し、多くの優秀な選手を育ててきました。

旭川体操協会においてはモントリオールオリンピック体操優勝報告会 フォートワース世界体操大会合宿・演技発表会、新体操ブラザーカップ旭川大会の開催を成功に導いた。

北海道体操連盟においても評議員・理事・副会長として27年間体操の普及発展に貢献された。

日本体操協会 功労賞

北海道体操連盟 副会長 吉田 忠治



高校時代より選手として活躍し大学進学後も本州勢と方を並べ多くの大会で優秀な成績を残してきた。帰郷後は高校教員となり、それまで体操部のなかった学校に体操部を新設し多くの優秀な選手を輩出するなど、指導者としても活躍した。また、北海道国体に向けて、選手育成のため

ちびっ子合宿の初回を開催するなど、十勝のみならず北海道の体操界に大きく貢献した。北海道体操連盟においては、現在の審判委員会の元となる組織を立ち上げ、体操競技の技術の革新・改革に真摯に取り組み、北海道体操の競技力向上と普及発展に寄与してきた。

第38回 北海道スポーツ協会表彰

北海道体操連盟 理事 五十嵐孝治



釧路体操連盟の役員として長年釧路地区の体操の普及発展に大きく貢献されてきました。昭和49年から24年間、理事及び幹事となり釧路体操連盟の中核として審判技術の向上や普及部長としても活躍されています。

平成11年から7年間は副会長と

なり釧路への大会誘致に力点をおいた組織体制の強化を行ってきました。

平成18年からは理事長に就任し、平成20年には「釧路湿原の風アリーナ」のオープンセレモニーとして北京オリンピック男子団体銀メダリスト6名を招き、帰国報告演技会を開催するなど北海道全体の体操普及発展にも貢献されています。現在も東日本ジュニア体操競技選手権大会の実施に向け奔走しているところです。北海道体操連盟においては35年間の長きにわたり理事として連盟の運営に尽力されてきました。

北海道体操連盟 功労賞

小樽体操連盟 赤丸 ひろみ



昭和56年より小樽体操連盟の理事となる。小樽での開催の全国大会をはじめ全ての大会の競技役員として大会を成功に導いた。

おたる体操ジュニアクラブのっ指導者として主に中級クラスの女子を受け持ち、全道大会などに向け始動に当たっている。

北海道体操連盟 優秀監督・選手賞

優秀選手賞

令和2年度 全国高等学校新体操選抜大会

新体操男子団体

第5位 恵庭南高等学校

選手 古澤 和也、北川 竜羽、丸山 礼、
萱森 琉生、佐藤 佳太、中根 葉、
柘植 智友、井戸 亮利

優秀監督賞

監督 工藤 直人

